

法覚寺通信

第21号

2026年1月
真宗大谷派
若松山 法覚寺
第6世住職
吉武 文法(代表役員)
〒049-4752
せたな町北檜山区若松479
電話 0137-85-1455

年頭のご挨拶

ねんとう あいさつ
ほうかくじ ちんと みなさま
法覚寺ご門徒の皆様、旧年中は大変お世話になりました。また本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、今年は2026年。新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認されたのが2020年1月。実に約6年の月日が経ちますが、ようやく私も初めて感染しました。先月12月の御講の日の晩から発熱し、その後はお参りもしばらく休んでおりました。御講にご参加いただいた皆様にはご心配とご不安を与えてしまい、申し訳なく思っております。お寺に来て感染したという方はいなかったでしょうか？

これまで大病も経験せずに生きてきた私にとって、コロナの症状は大変に辛いものでした。お参りに伺えないのももどかし、御講で鳥毛先生がご紹介くださった「病気の時は病人になりきって」という言葉の難しさを実感する日々でした。

お陰様ですっかり回復し、法務も再開しておりますが、日常の有り難さを感じる心もとつくに消え去り、成長の無い自分に嫌気も感じることなく、当然のごとく日々を過ごす私がいいます。
浄土真宗のお念仏の仏道は人間が成長する道ではなく、救われがたい我が身の事実を阿弥陀様が知らせ続けてくださる道です。忘れてしまう私だからこそ、「いよいよお念仏申

しなさい」と阿弥陀仏に願われているのです。この私が救われ難き身だからこそ、救おうとする阿弥陀仏の心をいいただくというのは、決して手放して喜べるものではなく、むしろ痛みを感じるものですが、私が私の正体に気づくというのは底が見える安心感があるのでしよう。

そんな教えをご門徒の皆様と共に聞いていきたいと、あらためて一年の始めに確認させていただく縁となりました。



12月の御講の様子

仏法は聴聞に極まります。みんなで聞いて聞いて聞きぬきましょう。あなた(私)の問題が必ず語られています。

若松山法覚寺 役員構成について

代表役員	(住職)	吉武 文法
責任役員	(坊守)	吉武 幸子
責任総代	(組門徒会員)	齊藤 茂則
前住職		吉武 文知
前坊守		吉武 正子
総代役員		細川 稔
総代役員		坂上 正幸
総代役員		※選定中
会 計		中嶋 宣広
世話方役員	(富里)	前野 隆幸
世話方役員	(富里)	高井 直麻実
世話方役員	(二俣)	近藤 芳美
世話方役員	(二俣)	坂上 正幸(兼務)
世話方役員	(濁川)	細川 稔(兼務)
世話方役員	(濁川)	栗原 一男
世話方役員	(小川)	日置 達雄
世話方役員	(若松)	大根田 英雄
世話方役員	(若松)	中嶋 宣広
世話方役員	(若松)	田井 重久(監事)
世話方役員	(若松)	松林 良子
世話方役員	(下若松)	加藤 幸男
世話方役員	(下若松)	原田 茂(監事)
世話方役員	(栄石・栄)	両坂 宏
世話方役員	(雲内)	細川 淳一
世話方役員	(北檜山)	板谷 利雄
世話方役員	(北檜山)	細川 伸男
世話方役員	(北檜山)	※住職が代行中(北松山3班)
世話方役員	(北檜山)	横川 洋二
世話方役員	(今金)	勝山 英敏
仏教婦人会会長		本間 久代
副会長		馬場 早苗
副会長		近藤 永子
会 計		高松 光子
監 事		大根田 陽子
監 事		坂上 和子

令和七年度 法覚寺役員会 開催報告

一月 八日 第一回総代会開催

一月 十九日 第一回役員会開催

報告事項1 令和六年度事業報告

2 令和六年度会計・監査報告

3 令和六年度報恩講決算

協議事項1 令和七年度事業計画・予算

① 通常事業(お講義・永代経・報

恩講)

② エアコン設置

2 葬儀会場使用料変更に伴う

各取り分の変更について

↓ 使用状況の様子見のため保留

とした。

3 開教100年記念旅行の助成に

ついて

↓ 50万円の助成を決定

4 令和七年度新年会について

七月 八日 第二回総代会開催
七月二十七日 第二回役員会開催

報告事項1 世話方役員の交代について

富里班・佐藤義広↓高井直麻美

2 事業進捗状況について

3 令和七年度会計現況報告

協議事項 1 浄化槽の管理について

↓ 汲み取りが高額となったため、今後の管理について協議した。点検は現状の業者とし、5年後にまた汲み取りを行い判断することとした。

2 広川総代の体調不良による臨時総代の選定について

↓ 承諾を得られず保留とした。

3 本山経常費・報恩講経費収納方法について

① 本山経常費四千元

② 法覚寺護持費九千元

③ 修復準備金五千元

④ 遠方門徒は報恩講費分減額

4 次年度以降の経常費等収納方法について

↓ 永代経のお仏供米をとりやめ、永代経志2千円を集めることとした。

5 お盆法要日程など、その他

十月 六日 第三回総代会開催
十月 十九日 第三回役員会開催

報告事項 1 令和七年度会計現況報告

- 2 後期経常費等収納方法について
 - 3 来年からの世話方役員ならびに班変更について
 - 4 事業進捗状況について
 - 5 檀家外墓地・納骨堂の使用者について
- ↓全ての方と確認の連絡が取れたことを報告

協議事項 1 報恩講厳修方法について

- 2 葬儀会場使用料の変更について
↓エアコン設置に伴い冷暖房使用時に1万円追加とした。
- 3 法覚寺開教100年記念旅行について
- 4 令和8年門徒会新年会について

令和七年度に開催された当寺役員会では、以上の内容について協議がなされました。今後もこのような形で十分協議を重ね事業を推進して参りますので何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和七年度 感謝状授与者

法覚寺役員勤続功労者

勤続 四十年 加藤 幸男 殿
勤続 二十五年 細川 淳一 殿
勤続 十年 日置 達雄 殿

法覚寺役員退職感謝状授与者

三津橋 国夫 殿
廣川 弘 殿

間法の道場であるお寺を長年にわたりお支えいただき、誠にありがとうございます。
これからも、お寺と御門徒の橋渡しをよろしくお願い申し上げます。

永代祠堂金寄進の御礼

令和七年度寄進者

二月 金 十万円 發出 民子 殿
八月 金 十万円 武藤 正憲 殿
八月 金 十万円 菊地 寿子 殿
十月 金 三十万円 栗原 一男 殿
十月 金 三十万円 水谷 亨 殿
十一月 金 三十万円 浅沼 珠恵 殿

※希望により掲載していない方もおられます。

永代祠堂金は亡き方を縁としてご寄進いただくもので、お一人につき十万元以上にて申し受けております。

ご寄進いただくと、永代経法名帳に記載し、春の永代経法要にてお一人おひとり法名を読み上げお勤めします。

令和八年の年忌法要について

年回早見表	
1 周忌	令和7年
3 回忌	令和6年
7 回忌	令和2年
13 回忌	平成26年
17 回忌	平成22年
23 回忌	平成16年
27 回忌	平成12年
33 回忌	平成6年
37 回忌	平成2年
43 回忌	昭和59年
47 回忌	昭和55年
50 回忌	昭和52年

法覚寺本堂には本年の年忌法要一覧表を掲示しています。亡き人とのご縁を大切に、ご法事をお勤めして仏法の教えに触れる機会を設けましょう。



れいわしちねんど ほうかくじどうほう

令和七年度 法覚寺同朋の

お悔やみ

※年齢は行年です。

一月 十九日	札幌 宮本 正廣 殿	八十九歳
一月 二十日	小川 森 満 殿	九十二歳
二月 十五日	若松 二ノ田 マサ 殿	九十七歳
二月 十六日	富里 浅野 ヨシ卫 殿	百一歳
二月 十七日	雲内 日置 光子 殿	九十六歳
二月 二十五日	二俣 近藤 忠 殿	七十八歳
四月 十八日	若松 吉武 聖子 殿	百三歳
五月 十三日	北松山 秋田 カネ 殿	九十五歳
六月 十六日	北松山 小池 千子 殿	九十四歳
八月 十二日	札幌 栗原 清春 殿	七十七歳
九月 二十六日	下若松 高橋 和春 殿	七十二歳
十月 三十一日	北松山 鈴木 初美 殿	七十六歳
十一月 十三日	濁川 小池 長光 殿	九十五歳
十二月 十九日	若松 金澤 糸 殿	九十九歳
十二月 十日	札幌 滝澤 俊一 殿	九十歳
十二月 十八日	北松山 細川 ふじ江 殿	九十九歳

あらためまして、命終に謹んで哀悼の誠を捧げます。

南無阿弥陀仏 合掌

住職も四十歳となりました

今年で私もとうとう40歳。帰ってきた頃は「若さん」と呼ばれ、可愛がっていただいた。ピチピチの私もいつの間にかやう立派なおっさんになってしまいました。時の流れは恐ろしいものです。数年前の写真を見ると自分が確実に老けていっている事実を告げられているようで驚くばかり。

さて孔子の『論語』では「四十にして惑わず（不惑）」と言われ、経験を積み、物事の本質を見抜く力がつき、自分の生き方や判断に迷いがなくなった状態が「不惑」とされているそうです。

法覚寺でいつも聞法されている方ならばお気づきかもしれませんが、浄土真宗では私がそういう不惑（迷いのない状態）になるとは考えません。死ぬ瞬間まであてもない、こつでもないと迷い続ける私であると、親鸞聖人は教えてくれます。

ならば浄土真宗的「不惑」とは「私は迷い

続ける者であるぞ」という自覚に迷いがなくなることもありません。これは開き直りではなく事実です。40年も自分と付き合ってきたら、そして結婚生活も10年を超すと、自分が清らかで確かな立派なものになるなんてことはないと実感することが多々あります。それでもそんな自分を頑なに立てる有様を止められないのですから、いよいよお念仏を申すしかないと感じるのです。私は私であることを止められず、しかも持て余しているのですから、問題は実に根深く救いようがないのです。

今号のつとば

あなたはいつから
あなたですか

東本願寺出版『お誕生おめでどう生まれ
てくれてありがとう』より

真城義麿